



生みの親といっしょに  
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして  
わたしを 見つめて  
わたしを 聞いて  
わたしを 呼んで

### 〔今、人間教育に問われているものは何か？〕 ～どのような人にWell beingは微笑むのか～

2021年8月27日(金)の新聞に、あおり運転を「妨害運転」と位置づけた改正道路交通法の施行から1年間であおり行為をしたとして同法違反容疑で警察に摘発された例は100件(96人)に上った、という警察庁がまとめた報告がありました。

あおり運転で相手をケガさせたり死なせたりしたとして、警察は危険運転致死傷害容疑で30件を摘発したと書いてありました。

私はこの記事を読んで古典的な心理学の理論を思い出しました。それは人間の持つ二大欲求のことです。「承認の欲求」と「集団所属の欲求」です。

人間とは常に、人との関わり(養育者)、家族との関わり、仲間との関わり、地域との関わり、社会との関わりの中で存在の承認を受けながら生きていく喜びを感じる生物だと言われています。また集団の中で生活する社会化の人間としては、仲間はずれにされないよう集団に所属し、同意される人間でなければ共同生活を送ることはできないのです。

だからヒトは生命を授けられた時から  
**「ひとりでできる、ひとりでできた、みんなとできる、みんなとできた」**  
の世界の中でほめられ、励まされ、称賛されて生きる術を獲得しながら成長・発達してきたのです。それは他人の長所を伸ばすにはほめることと、励ますことが何よりの薬だと歴史的に学んできた証から身につけてきた”ヒト創りの手引き”だったのでしょ。

またヒトは地域社会の中で、助けあって生きるために必要な手立てとして「集団所属の欲求」という生き方があります。

ヒト属は20万年以上も前から「助けあって生きる」という遺伝子を大切に育みながら今があるのだそうです。



笑ったかす一番 だっこされたかす一番 やさしくされたかす一番  
遊んだかす一番 でかけたかす一番 チャレンジしたかす一番

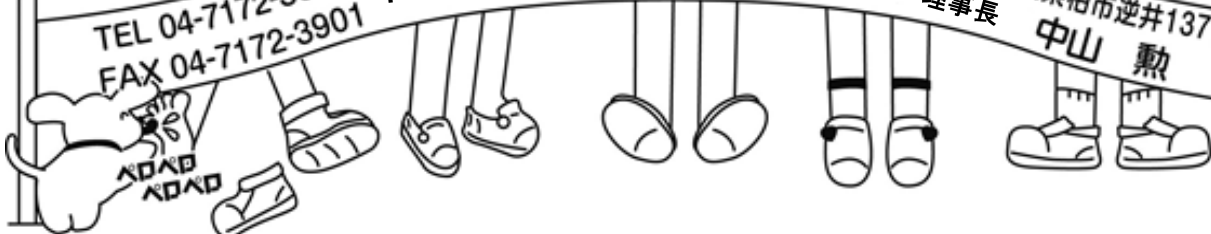


E-mail [doushinkai@doushinkai.jp](mailto:doushinkai@doushinkai.jp) URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939  
FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1  
理事長 中山 勲



だから集団所属という考え方は乳幼児期からの  
「みんなと できる、人のために できる、みんなと できた、人のために できた」  
を学び・学ぶことをくり返しながらかつてきている喜びを身につけてきたはずなのです。

しかし先に書いた”あおり行為”をした人たちは、事前に「罪が重くなりますよ」  
と知らされていたはずなのになぜ罪を犯してしまったのでしょうか。

今私たちが住んでいる家庭・学校・社会生活の中で、どうしても今日まで解決のできない問題があります。  
虐待といじめ・ひきこもり・不適切な教育(マル・トリートメント)に代表される世代間連鎖による社会問題です。  
私はあおり行為やいろいろな事件を引き起こす人たちの人生をふり返ってみると、  
この人たちの「生涯教育・生涯学習」の中で欠けていたものは、どうしてもそれが  
「愛された育ちであり、だきしめ言葉」だったのではないかと思われてなりません。  
だから今の科学は私たちに養育環境の見直しと育ち直し・育て直しのための  
新しい保育技法を求めているのです。

脳神経科学者の明和政子さんは2019年に発表した著書「ヒトの発達の謎を解く(K.Kちくま新書)」の中で  
ヒトの心のはたらきは、生物が持つ身体が環境と相互作用を繰り返していく中で  
創発と発達していく脳と心の本質について述べていました。

### 三つの身体的感覚

- 1) 外受容感覚(五感の刺激)      2) 自己受容感覚(身体的接触)      3) 内受容感覚(情動的接触)

改めて考えてみますと、上記のAtzil, et al(2018)、明和(2019)の理論的構成は  
私たちが1973年から実践、実行してきた「五感を刺激する0歳からの人間教育」と同じなのです。  
また「思いやりと生きる力」は(社福)童心会において創発・進化して下記のようにになりました。

### 従前から行われてきた(社福)童心会の保育技法

- 1) 五感を刺激する0歳からの人間教育(視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚)
- 2) 愛された育ち(身体的接触・子どもの権利・応答関係・愛着形成・ケア・コミュニケーション)
- 3) だきしめ言葉(情愛的接触・養育者の義務・応答関係・愛着形成・ケア・コミュニケーション)
- 4) 養育環境の見直し(育ち直し・育て直し・新しい保育技法)

このようにして改めて「ヒトの成り立ち」から人間教育をふり返ってみますと、原始的ではありますが  
「ほめること、励ますこと」から始まり「愛する心、ふれあいと見守り(応答受容)、愛された育ち(身体的接触)、  
だきしめ言葉(情愛的接触)」に終わるのではないかと考えています。  
そして新しい科学はWell being(社会的な幸せ)を身につけるために大切なホルモンの存在を教えてくださいました。

- 1, だきしめ言葉で オキシトシン(愛情のホルモン)
- 2, 朝陽を浴びて セロトニン (幸せホルモン)
- 3, たくさん遊んで メラトニン (睡眠ホルモン)
- 4, やる気を育てる ドーパミン (アドレナリン)

考えてみれば、私たちの生活は幼い頃から”できる・できた”の戦いだったような気がします。

そして”成功体験・失敗体験”が私たちの心を強くしてくれたのでしょうか。

チベットのダライ・ラマ法王は、”ツェフ”という言葉教えながら「人を愛する以上に自分自身を愛しなさい」  
と言っていました。私は日本の文化に強く根付いている自敬・自尊心という言葉が好きです。  
幼い時からたくさんの人たちに自分の存在を認められ、称賛を与えられる機会を多く持つことができた人が、  
より強く生きることができるのではないかとこの長い人生経験を通して確信しています。

このような人間教育が、(社福)童心会の訓えです。

ご協力下さい！

令和3年9月吉日  
社会福祉法人 童心会  
理事長 中山 勲

※ 童心会だよりはホームページ上でご覧になれます。  
理事長の部屋【<http://doushinkai.jp/message/>】